

日本模具業問卷調查

出處：2019年5月號型技術雜誌

日刊工業社於2018年夏做「2018年模具業界問卷調查」(全國137社回答)，鑑於有利的訂單環境，積極投資的模具製造商脫穎而出。另一方面，人力資源和人力資源開發的不足，利用物聯網及機器人的問題已經凸顯出來。

一、回答企業(137家)的規模及類別

● 規模

回答企業を規模別に見ると、「10人以上50人未満」が49.3%で最も多かった(図1)。「10人未満」の17.6%がそれに続き、50人未満の企業が7割を占めた。主要生産分野では、「自動車・輸送機器」が63.2%で圧倒的多数を占め、続く「産業機器」7.4%、「日用品」5.9%を大きく引き離れた。

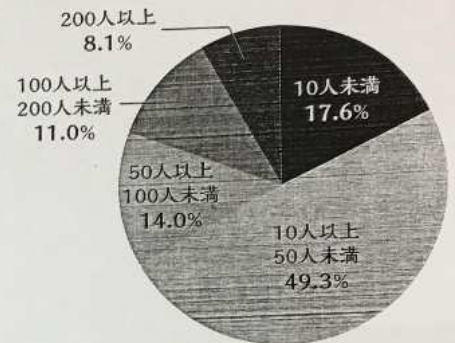


図1 回答企業の規模

● 類別

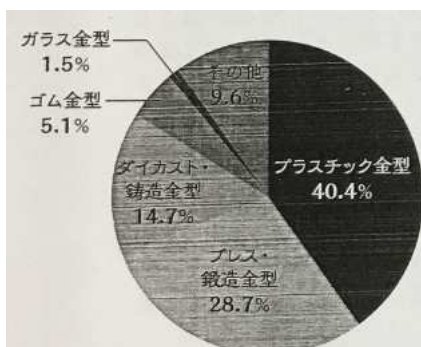


図2 回答企業の主要生産品目

型種別では、「プラスチック金型」を主要生産品目とする企業が40.4%と最も多く、「プレス・鍛造金型」28.7%、「ダイカスト・鑄造金型」14.7%、「ゴム金型」5.1%、「ガラス金型」1.5%が続いた(図2)。

足元の受注動向について「増加している」と回答した企業は41.9%で、「減少している」の19.1%を大きく上回った。今後の受注の増加が見込める分野では、自動車関連をあげる企業が最も多く、医療関連や半導体関連がそれに続いた。建材や自動化設備、ロボット、家電、食品関連などでの引き合いが増えているとの声もあった。

●137家廠商名單

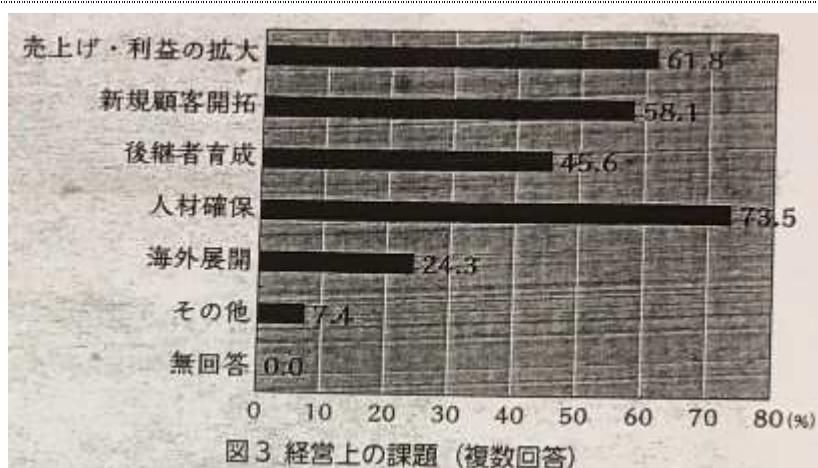
KTX、アイ・ディ・オー、エフ・エー・テック、キャストム、コナン精工、エムアイモルデ、サイベックコーポレーション、セキグチ精工、テクノ共栄、ナカトガワ技研、ミヨシ、ムトウ、モルテック、ヤマセイ、伊藤製作所、井上製作所、宇山金型製作所、菊池製作所、キヤノンモールド、協栄プリント技研、橋場鐵工、狭山金型製作所、玉川精密、高橋鐵工所、黒澤金型、三木製作所、小椋製作所、小林工業、昭和精工、松田金型工業、松野金型製作所、星野機工、聖徳ゼロテック、石井精工、石川製作所、大精工、沢井製作所、中央ハイテック、長山工業、長島成型、東京硝子精機、東京鋌螺工機、東照機工、東洋金型工業、日型工業、日本精機、日本彫研工業、富士金型、扶桑精工、米山金型製作所、北日本金型工業、枚岡合金工具、明輝、明石プラスチック工業、明和製作所、アイクス、キャップ、サン精機、チウキョー ニチダ、ヒロセ金型、ホーエ、ユーアイ精機、愛豊精機製作所、塩入製作所、久野金属工業、魚岸精機工業、協栄金型工業、黒田精工、三恵金型工業、三幸、七宝金型工業、若園精機、小出製作所、小西金型工業、新日本テック、池上金型工業、竹田サンテック、中越製作所、東邦工業、藤岡エンジニアリング、日新精機、米谷製作所、N-proto、アイエムデー工業、アステック、イースタン技研、マッタ工業、ミヤジマ、ヤマナカゴーキン、伊吹機械、岡崎金型工作所、関東製作所、近畿精工、三高製作所、

真末鐵工所、石原産業、大高製作所、中部プロGRESS、東亜成型、内山精工、豊洋エンジニアリング、立山製作所、竜飛精工、ヴァンテック、タカギ、ワークス、菊池金型、京浜金型製作所、協伸精機、熊本精研工業、今西製作所、寺方工作所、寿原テクノス、進恵技研、田中金型製作所、東洋ガラス機械、DIO 技研、アケボノ、アルフテック、エムエス製作所、オーニク、テクノグローバル、マルスン、ミネムラ金型、モルフ八岡山技研工業、菊池金型製作所、山岡製作所、前田技研、中日金型、不二精機、福井精機工業、米沢放電工業、山口精機工業、早川ダット工場、ベストモールド

二、人才不足/人才育成/工作方式改革

● 經營管理的課題

在管理問題方面，73.5%的公司回答“人才確保”，佔整體70%以上（可複選，圖3）；其次，61.8%的公司回答“銷售，增加利潤”；58.1%回答“新客戶開發”；45.6%回答“接班人培訓”。此外，在回答“其他”的公司中，做塑膠模具的協伸精機(名古屋市緑区)回答“建立和強化組織體制”，做壓鑄模具的七宝金型工業（愛知縣津島市）回答“對新業務的挑戰，”做塑膠模具的狭山金型製作所(埼玉県入間市)回答“資金調度、人才育成、工作規則的修訂等”。



● 人才採用

許多公司將人才確保視為管理問題。當被問及「是否能夠毫無問題地僱用人力」時，根據調查，36.8%的公司回答“有些問題”，28.7%的“非常有問題”招聘方面有問題的公司佔70%（圖4）。30.9%的公司表示“差不多”，只有3.7%的公司表示“一切都好”。

在這種情況下，模具製造商正嘗試各種努力，當被問及如何獲得和保留人才所採取的措施時，多數回答“與工業高中和大學合作僱用新畢業生”，佔了52.9%的企業（可複選，圖5）。“努力提高年輕人留任”為45.6%，“用女性職員”為41.2%，“用65歲以上資深人員”為36.0%。無論年齡、性別和經驗如何，企業都在積極保障人力資源。



●工作方式改革

企業對“工作方式改革”的積極態度也變得明朗。當被問及改革工作方式的努力時，回答“正在努力”的企業佔 49.3%，約佔總數的 50%（圖 6）。“正在考慮中”佔 19.9%，大約有 70%的企業認識到工作方式改革的必要性，結果證明企業的態度是積極的。黒沢金型 (東京都足立区)回答“我們正在推動機台設備自動化，縮短加班時間。”米山金型製作所(長野県松川町) 回答“招聘、教育、增加假期、建立考評制度”來縮短工作時間。中部プログレス(静岡県牧之原市) 回答“接受多樣性（男女老少、外國人、派遣/零工）、作業自動化，領導班的職場騷擾教育”等，實現工作方式改革的多樣化。

